

## 勝利に向かって サッカー少年少女が躍動

11月5日から6日にかけて、檜山サッカー協会（熊野主税会長）が主催する『第13回コパコロンフットサル大会』が町民体育館ほか3会場にて開催され、本町と江差町の子ども達が所属している『U11ハルノケFC』が優勝を飾りました。

本大会は、渡島檜山管内のほとんどのチームが参加する大規模な大会で、昨年8年ぶりとなる優勝を飾ったコラソン・keFCは、この1年でそのチーム力をさらに進化させ、並み居る強豪を押しつけて2連覇を成し遂げました。

2連覇には、地元選手達も大きな原動力として貢献し、なかでも今大会でMVPに輝いた副キャプテンの杉野凌爽君（上ノ国小）は、『地元の試合で勝つことができてよかった。次は全道大会も控えているので、チーム一丸となって頑張ります。』と話すなど新たな目標を掲げていました。



## 町内で初の試み！ 子実トウモロコシ栽培

10月19日、木ノ子地区で農業を営む齊藤誠さんが、子実トウモロコシの収穫作業を行いました。

子実トウモロコシは、畑で完熟させて実だけを収穫・乾燥させたもので、道内では、国内産の安全性を求める畜産農家からの需要が高まっており、土壌改善作用もあることから、輪作に組み込むことで他の作物への波及効果も期待できるとのことです。

齊藤さんは、3畝にもなる茎とその先端に実った子実トウモロコシを前に、「需要があるので来年は更に作付面積を増やしたい。また、根が深くまで入るので畑の水はけが良くなり、収穫後の茎や葉をすき込むことにより、大量の有機物が土に混ざるので、土壌にもいい影響が出る。」と話していました。



## 提案とともに、 若者の考え伝える

11月18日、上ノ国高校の生徒が町政への提案や質問を行う『ふるさと高校生議会』が総合福祉センターで開催され、2年生23名が参加しました。

本議会では、議員役となった代表6名の生徒が登壇し、議長となった三浦謙信君の進行のもと、『人口増加への施策』『使われていない土地や施設の有効活用』『若者や高齢者の住みやすいまちづくり』などについて、提案や質問が行われました。

本町は、人口減少問題をはじめとする様々な課題に直面しており、高校生の質問は、こうした課題を肌で感じていることをうかがわせる内容で、質問と同時に問題に対する具体的な提案も行うなど、主体的に目の前の問題に向き合っている姿勢を感じる事ができた場となりました。



## 地区を越えた交流 楽しく健康増進

11月16日、上ノ国町老人クラブ連合会（高橋廣会長）主催のもと、『第38回高齢者スポーツ大会』が開催され、205名が参加しました。

毎年、高齢者同士の交流と健康増進を目的に開催されているこの大会ですが、各地区ごとの対抗戦ということもあって大きな声援が飛び交い、全ての参加者が他の地区に負けじと全力で競い合っていました。

競技は、恒例の輪投げやボウリングのほか、今年から7歳のトンネルをくぐるリレーなど新たな試みもあって、新鮮な気持ちで競技に挑み、参加者は時に真剣に、時には笑顔で交流を深めている姿が印象的でした。

